



シンボル・マーク

子と親・幼稚園が
ともに手をとりあっ
て未来への飛躍を願
うもので、親と幼稚
園が子どもを育む姿
を岩手の「い」に象
徴している。

広報岩私幼連

(題字は工藤巖元岩手県知事)

VOL

122



『わかざぎ、釣れた～～！！』

『焼いて食べよ～っと！』

今後の動向



(一社)岩手県私立幼稚園・認定こども園連合会
会長 今西 界雄

2024年中の出生数がついに70万人を切り、68万7080人となり、2023年の出生数72万7288人と比べて5.5%減少する見込みであります。1899年の統計開始以降最少だったが2023年を2024年はさらに下回って9年連続で減少するとみられています。

人口は、国力の維持に大きな影響を与える一要因と言われているだけに、少子化の進行は、国策の最重要な課題と言わざるを得ません。日本では、1990年の「1.57ショック」以降、少子化対策が下記のとおり本格的に進められてきました。政府の主な取り組みを時系列でまとめてみると

1990年代に少子化対策が開始

- ◎1994年「エンゼルプラン」を策定し、仕事と子育ての両立支援として、保育所の増設や延長保育、地域子育て支援センターの整備などが行われた。
- ◎1999年エンゼルプランを強化・拡充し、子育て支援策をさらに推進した「新エンゼルプラン」が策定された。

法整備と支援の拡充の2000年代

- ◎2003年に「少子化社会対策基本法」が制定され、少子化対策の基本的な枠組みを定め、総合的な施策の推進が図られた。
- ◎2004年に企業や自治体に対し、子育て支援の行動計画策定を義務付ける「次世代育成支援対策

推進法」が施行される。

- ◎2009年「子ども・子育てビジョン」策定し、子育て支援策の総合的な指針が示された。

支援策の強化と多様化の2010年代

- ◎2010年 子ども・子育て支援新制度の創設に向けた法的基盤を整備のための「子ども・子育て支援法」制定された。
- ◎2015年 「子ども・子育て支援新制度」開始され、幼児教育・保育の無償化や地域子育て支援の充実を図った。

子ども・子育て政策の更なる強化への2020年代

- ◎2023年 岸田政権が、子ども・子育て政策の抜本的強化のための「こども未来戦略方針」を打ち出した。

これらの施策を通じて、認定こども園や小規模園等の子育て環境の整備や支援の充実が図られてきましたが、少子化対策というよりは、子育て支援の色彩が強く出され、少子化の傾向に歯止めをかけるには至っていないのが現状であります。これまでの施策が、子育て支援の一助にはなったものの、少子化の解決に結びつきづらかったといえます。引き続き抜本的かつ効果的な対策が求められるところであるが、今後の少子化対策をみても子育て支援の色合いが強く、子育ての負担が軽減されるものの、少子化対策に効果的とは思えません。そこで、国レベルの施策とは別に、地方の実態を踏まえたきめ細かな施策が望まれると考えます。そのためには区市町村との関係を密にしていくことが重要な要件となってきます。今後、様々なメニューが課せられる中、園自身も改革に向けて取り組む必要があります。

その代表的な施策の一つに1歳児の配置基準が1人に対し6人であったものが、1人に対し5人になることが報告されています。これは、無条件で認

められるものではなく、次の3つの条件が整わないと認められない施策であります。

- (1)処遇改善加算Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの全てを取得していること。
- (2)業務においてICTの活用を進めていること(①登降園管理 ②計画・記録 ③保護者連絡 ④キャッシュレス決済のうち①及びもう1機能以上の機器を導入し活用していること)
- (3)施設・事業所の職員の平均経過年数が10年以上であること

この様に処遇改善やICT化を進めている施設でないとは認められないので注意が必要であります。

また、日本版DBSが義務化されることになっており、周知しておく必要があります。この仕組みの概要は、性暴力防止の手段の一つとして、事業者が雇用する従事者について、特定の性犯罪の前科の有無を確認するための仕組みで、こども家庭庁に申請することによって対象者の前科の有無が事業者へ「犯罪事実確認書」として交付されるというものです。対象となる特定犯罪は、不同意性交罪・不同意わいせつ罪・児童ポルノ禁止法違反罪・痴漢や盗撮などの条例違反がそれに該当します。今後制度の詳細についてのガイドラインが示される予定になっていきます。詳細が決まり次第報告させていただきます。

最後に令和8年度から本格的に実施される「こども誰でも通園制度」推進も試行的に各地で進められているところではありますが、令和7年度は、6年度の反省を踏まえてこども一人あたりの単価が見直され、0歳児1300円、1歳児1100円、2歳児900円となっています。今後詳しい改訂内容が届くと思いますので、特に私学助成園にとっては、将来の3歳児獲得に向けた有益な情報なので関心を持って欲しいものであります。

イーセック「ECEQ®」ってなに？ 解説します ——— 教育研究委員会

1. イーセック ECEQ® って？

全日本私立幼稚園幼児教育研究機構が開発した「公開保育を活用した幼児教育の質向上システム」です。

自園の教育実践の質向上につなげていく学校評価実施支援システムとして誕生。システムの中心は「公開保育」です。



イーセック

Early Childhood Education Quality System 幼児期教育の質の高い仕組み

2. 幼児教育の質向上のために

- ◇目的1 公開保育を実施し外部の視点を導入することによって、より多面的で多角的な評価・改善を行う
- ◇目的2 園として学校評価を持続的に実施し、幼児教育の質を向上し続けていくための組織風土をつくりあげていきます。

3. ECEQ® 公開保育を実施することで

- ① ECEQ® 公開保育では普段通りの保育を見学します。参加者の感想や意見がフィードバックされることで、自分たちだけでは分からなかった自園の良さや課題を見つけていきます。
- ② その過程で園内のコミュニケーションを活性化し、同僚性を高める方法を学びます。また、教育活動におけるPDCAサイクルが機能する

ようになり、教育の改善に繋げることが期待できます。

- ③ ECEQ® 公開保育は、教育研究機構で研修を受け認定された ECEQ® コーディネーターが、この取組の始めから終わりまでサポートします。今までに公開保育をしたことがない園でも安心して実施することができます。
- ④ ECEQ® コーディネーターは、実施園を評価したり指導したりする役割ではありません。実施園の保育者たちの話を深めたり課題を整理する補助をしたり、公開保育当日に参加者との対話を促したりするお手伝いをします。

4. では、ECEQ® 公開保育をどんなふうにするの？

次の5段階で進めます。「5STEPを通し園との対話を丁寧に」がコーディネーターのモットーです

【5STEPのプロセス】

- (STEP 1) 理事長・園長・副園長・教頭・主任の先生から園運営への思い等、お聞きします。
- (STEP 2) 実施園の保育者から園の現状のヒアリングと、自分たちの良さや課題を探るために、ワークショップで語り合います。
- (STEP 3) 参加者に見てもらいたい視点を話し合い、参加者に聴きたいこと等をまとめて「問い」作りをします。園内研修として実施しますが、コーディネーターは問い作りに関し、メール等で支援をします。
- (STEP 4) 『公開保育』午前中の普段の保育を公開！午後は参加者との協議・語り合い 深めていきます。
- (STEP 5) STEP 4までの振り返り・まとめをします。

実施記録の作成をし、研究機構

からの「実施認定証」受領して終了！です。

※このすべての段階を、実施園と ECEQ® コーディネーターとの協働作業で進めます。助言者に教えるを乞う教授型ではなく、実施園と共に学び合い、育ち合う「参加者主体」の学びを実施します。STEP 4の公開保育では、現場の保育者同士が意見を交わし合うことで、実施園はもとより、見学した参加者自身にも気づきや学びが生まれます。

◇さいごに

今年度は県内3園、ささま幼稚園・認定龍澤寺こども園幼保連携型こども園盛岡大学附属幼稚園が ECEQ® 公開保育を実施しました。自分たちで課題などにも気づき、さらに向上しようとする意欲が素晴らしいと感じました。

実施3園とも先生方の「やってよかったECEQ®！」の声とすがすがしい笑顔が印象的でした。

皆さんも「ECEQ® 公開保育」やってみませんか？ ECEQ® コーディネーターがあなたの園の「挑戦」にお伴します。

ECEQ® についての疑問点等々、何なりとお尋ねください。



令和6年度総合研修会

令和7年1月9日・10日の2日間にわたり、岩手教育会館及びエスポワールいわてにおいて開催されました。参加園は67園で参加者は初日256名、2日目144名を数え、全体会のほか経営セミナーと教員研修の分科会に分かれて開催されました。



講演 「感じる発達障がい ～これからを見据えた理解と対応と環境調整～」

講師 岩手県発達障がい者支援センター 相談支援員 四戸 航 先生



発達障がいに関するテーマで、日々の経験とリンクした内容を共有しながら、子どもたちの

特性を理解するために、エピソードを集めてイメージ作りを行うことが重要であると具体的なお話を伺いました。相談者の中には、初めての場所や人に対する反応が異なる子どもがいることを例に挙げ、コミュニケーションや社会性のスタイルについても触れられました。また、保護者や先生との距離感や独特の伝え方についても言及し、発達障害の理解を深めるための具体的なアプローチを提案されました。たとえば相談者の中には特定のシーンやエピソードを繰り返し見る子どもが多く、遊び方やこだわりの例として道路標識や車のナンバーに強い興味を示したり、帰り道の順路にこだわり何度もやり直すことや、食べ物の好みが極端であることが挙げられました。また、感覚特性に関しては、聴覚や触覚に敏感な子どもが多く、特定の素材や音に対して強い反応を示すことがあります。発達障害は生まれ持った特性

であり、環境への適応が求められる中で困難が生じており、これらの特性を理解することが、支援において重要であると述べられました。子どもたちの不調や行動の変化について、特に環境の変化が影響を与えることを指摘され、相手の視点を理解することが難しい子どもたちがいることなど、発達障害の特性についても触れ特に不注意や多動の子どもたちが、動くことで落ち着く場合があることがあり、支援の方法として、子どもたちの見通しを立てることや、声かけの工夫が重要であると提案されました。褒めることは特に重要で、ポジティブな行動を増やすことが効果的で、子どもたちができたことに対して感謝や褒めることでやる気を引き出してゆくことが重要です。遊びと見なされがちな行動が、実は不安を和らげるための自己防衛である可能性があり、同じフレーズの繰り返しなど、子どもたちが安心を求める行動について説明されました。コミュニケーションの難しさは、子どもたちが言葉を理解できていないことが原因である可能性があり、これらの観点から、子どもたちの行動を理解する必要性を強調されました。自閉スペクトラム症の子どもたちが

「ちよっと」や「もう少し」といった時間感覚を理解するのが難しいことがあり、具体的な期待を伝えるための工夫、視覚的な例示などの支援を用いることで、子どもたちが理解しやすくなる可能性があるとして提案されました。また、遊びの輪に入れない理由として、興味の対象が物であることやルールの理解不足をなどから、無理に集団に適応させることのリスクもあります。さらに、子どもたちの興味や成長に基づいた支援の必要性を訴え、参考になる書籍や、早期発見のためのツールの重要性についても触れました。ツールチェックシートの活用について、診断には限界があるものの、チェックを通じて情報を拾えること、フォローアップの重要性や専門機関への連携が全国的な課題であり、支援ファイルの活用を促しました。保育者は保護者との関わりにおいて、彼らの感情や孤立感を理解し、共感者としての役割が重要である、保護者への理解を急がず、彼らのペースに寄り添うことの大切さを強調されました。最後に、子どもたちの成長を支えるための連携の重要性を訴えられました。

講演 「雇用管理に関わる法改正」

講師 かわり社会保険労務士事務所 社会保険労務士 菅原 かわり 先生



採用時の労働条件の明示について、今年4月・10月に改正される育児・介護休業法、ハラスメント対策等のお話を伺い

ました。以下に内容を列記いたします。

1. 労働条件通知書には、契約期間

や業務内容、賃金、解雇に関する事項を明示する必要がある。

2. 有給休暇は雇用開始日からの付与や使用期間に応じた付与があること。

3. 介護と育児に関する相談窓口を設置し、40歳に達する労働者に介護制度の情報提供を行うことが義務化されたため、対応資料を作成すること。

4. ハラスメント対策の周知を行い、相談窓口の設置を進めるこ

と。身体的および精神的な攻撃、職場環境の侵害に関する注意喚起が行われ、特に同僚や部下からの相談に対する情報共有の重要性が強調されました。

また、70歳までの就業機会確保に関する法律改正や、雇用保険の適用拡大について説明され、無期転換申込権についても触れ、5年を超える有期契約者にはその権利を通知する義務があることが説明されました。

講演 「私幼・こども園を取り巻く情勢と今後の課題」

講師 全日本私立幼稚園連合会 政策委員長 石田 明義 先生



先生には幼児教育の重要性、教育環境についての最新情報を伺いました。私立幼稚園の現状や課題、無償化の影響など、教員不足の深刻さを指摘されま

した。また保育料の適正化や人材確保のための改善策が必要であると提案され地域の教育機関の連携や支援制度の強化についてや、今後の方針に

ついでの意見をお聞きしました。子ども誰でも通園制度の問題点や、法定価格の構造についても言及され、国に対する改善要求や、処遇改善や地域手当の格差について、具体的な数値を示しながら問題提起が行われました。また、長時間保育の影響や発達障害の増加についても懸念が示されました。過去のルーマニアの独裁政権下での子どもたちの養育状況について説明され、特に愛着障害や発達障害の増加に関する懸念を示されました。0.12歳児は家庭的な環境での育成が重要であり、国連の定義に

基づく代替養育の必要性を強調され、長時間の保育が逆効果になる可能性あり、社会全体での検証が必要であると提案されました。また、育児保育手当の在宅育児者への支給提案や、専業主婦支援の重要性があげられ、女性の就業率向上や若者の働き方に対する意識の変化についても触れられました。最後に、園の存在意義や社会貢献の重要性についても触れられ、建学の目的や教育理念について、若い世代への伝え方「パーパス」を一言で表現する重要性を強調されました。

講演 「乳児保育の環境と乳児への適切な関わり方」

講師 みどりの保育園 園長 高木 宏子 先生



幼稚園に長くお勤め後、保育園園長5年目の高木先生に、「乳児保育の環境と乳児への適切な関わり方」について、子

どもたちの写真や保育所保育指針等に沿ってお話をうかがった。

0、1、2歳児は一生のうちで一番適切な養護と教育的関わりを必要としている時期であり、夢中になって遊び生活する中でたくさんを学んでいる。

言葉で上手く表現できない乳児も視線や表情、泣くなどの動作により思いを表現し、困ったときにしっかりと受け止めてくれる特定の保育者がいることで安心の基盤を作り、興味のあるものに働きかけ世界を広げ

ていくようになる。「自分でしたい」という気持ちを尊重し、目の前の子どものありのままを受け取って温かく見守るとともに、愛情豊かに、応答的にかかわることが乳児保育には大切である。

やりたいこと、好きな遊びに夢中になっているときには子どもたちにトラブルは起きない。夢中になって遊ぶことのできる環境構成を再確認していきたい。

講演「子どもたちの健康と食育～国や県の食育計画～」

講師 岩手大学名誉教授（岩手県食育推進ネットワーク会議会長） 菅原 悦子 先生



「正しい食生活は、誰と、どこで、何をどのように食べるかによる。心も体も満たされて本当の健康と

言える。」家庭科の先生としての経験や自らの子育ての体験などを交えながら、また、国と県の食育計画を示しながら、食事は一人では成立し

ないことや、楽しい食事であればならないことを強調され、食を営む力を育てることが食育であると教えてくださった。「早寝、早起き、朝ご飯」の大切さ。特に乳幼児期には、五感を刺激し脳を活性化させられるように日常生活で食を中心とする活動を多く取り入れることを勧められた。一日の中で、睡眠と食事などで体はリズムを刻み、ホルモンが分泌される。太陽の光を浴びることで生活のリズムを整え、規則正しい

時間にバランスの良いご飯を①いつ②誰と③何をどれだけ食べるかが重要となる。日本人にとって基本となるのは和食で、岩手の食文化（郷土食と食材）を基礎とした食育を推進し、SDGsに貢献しながらみんなで元気になろう！

最後に、幼児との食事で苦勞しているという投げかけに対し「岩手のこれからの担う子どもたちのため、希望をもって楽しい食事をしてほしい。」と話され講演を終えられた。

講演「リーダーシップの理解について」

講師 いわて幼児教育センター 岩手県教育委員会事務局学校教育室 主任指導主事 吉田 澄江 先生



教育目標が元になって園の教育の全てが決まる。時代や子どもの現状に合わせて変えていいもので、子ども

の育ちにとって大切なものであることを再認識させていただいた。一般的にいうリーダーシップは、地位や責任・能力によるものだが、園に

おけるリーダーシップとは安定的に質の高い保育ができる体制を作ることであり、それは管理職だけが持てばいいというものではない。一人ひとりがチェスのコマではなく指し手となること、つまり園全体で全ての人が主体的に動くことが必要となる。そのためにも、同僚性を高め、職場内の風通しを良くし何でも話し合える関係を構築する。保育と子どもの話をしっかりとするために、話にタイトルを付ける、先に結論を言

う、時間内に話をするなどの工夫が必要で、相手に対して敬意と謙虚さがなければならない。また、まず保育者が主体性を伸ばすこと。周囲との認識のずれに気づき、思考力を身に付け、大人として協働性を養うことによりリーダーシップを発揮できるようになる。その先にあるマネジメントとして「そこにいる人の力が安心安全な場所で十分に発揮できる場を作ること」だと教えてくださった。

講演「保育ドキュメンテーションの実践について」

講師 認定こども園こもれびのもり幼稚園 園長 田頭 初美 先生



青森県八戸市で「地域のすべての子どもたちの居場所づくり」を願って園運営をしている田頭先生から

ICT化の現況と今後の活用についてお話をいただいた。

2018年春、ICT化に取り組み始めた

が、登降園管理、出欠確認、費用自動計算等、業務負担軽減、効率化が図られたばかりではなく、保護者にも喜んでもらえる状況であった。さらに、子どもの活動を写真や動画、音声、文字など視覚的に記録をする新たな取り組み「おがメンテーション」の開発に参画することで、学びの見える化が進み、園内研修が活性化し子どもの育ちや学びつながった。

業務の多様化、複雑化、働き方の見直し等により、職員の話し合いや交流が取りにくい時代でも、ICTを活用し効率化を図りながら、幼児施設本来の一人一人の育ちに寄り添った温かい「保育と教育」の実現に効果的であった。保育の質の向上の視点でも保育ドキュメンテーションは大きな成果があり、更に研究を深めた。

地区会だより

県北 「ならでは」の遊びに親しんだ冬。

近年続く暖冬傾向により、当地区は雪の少ない年末年始となりました。今年も雪遊びはできないかなあ…と、空を見上げていたところ、1月下旬になってドカッと、まとまった量の降雪がありました。これに喜んだのは子ども達。出番を待っていたスノージャンパーと手袋、毛糸の帽子を着込み、我さきと園庭に積み上げた雪山に飛びついていきます。ある子はソリで滑り降り（転げまわり）、またある子は、スコップ片手に穴掘り。向こうの方では、お友達と一緒に雪ダルマやカマクラ（のようなもの）を夢中になってこしえる子がいます。皆、思い思いに好きな雪遊びに没頭していました。その後も戸外遊びに向くコンディションの日が続き、毎日のように雪遊びが満喫できたので、子ども達にとってとてもうれしい冬となりました。春待ち遠しく、冬名残惜しい頃になってゆきます。



夏は「水あそび」、冬は「雪あそび」がやっぱり楽しい！

（まつのまるこども園園長 國分大輔）

盛岡 「より良い保育をめざして」



講師 片岸なお子先生と記念撮影

盛岡地区会では、今年度、盛岡市、滝沢市、紫波町、矢巾町の 27 園が 6 班に分かれ、各班のテーマに沿って月 1 回、年 8 回集まり、研究を行っております。また、研究がより深く取り組めるよう、2 年継続で行われており、今年度はその 1 年目の年にあたります。

この研究では、一人一人が考えや思いを主体的に出し合えるよう、グループ構成を少人数且つ異なる年齢の構成にししたりするなど、工夫をしながら進めております。

また、専門分野に精通する講師の先生をお招きすることにより、研究をより深く理解できるよう取り組んでおります。

自園だけではなく、他園の先生方とお話をする機会が得られるこの研究により、保育者としての視野や思考が広がり、保育の幅に厚みを増してくれるこの研究会を、今後も継続できる方向へ進めていきたいと考えております。

（幼保連携型認定こども園 二葉幼稚園 主幹保育教諭 袖林 真貴子）

中部 「令和7年度東北地区教員研修大会(岩手大会)に向けて」

中部地区では、令和7年度の東北地区教員研修大会（岩手大会）に向けて昨年度末から準備を進めています。大会主題である一人ひとりの「こどもがまんなか」をまもる質の高い幼児教育を目指して、10分科会と8園の公開園も決まり、分科会テーマについては、公開園が何度か集まり、話し合いをしているところです。

公開園においては、各園の教育目標を掲げながら遊びや生活の中で、子ども一人ひとりの思いを受け止め、心に寄り添い、個々の成長を大切にしながら保育の充実をはかり、日々保育をしています。

東北5県の先生方はもちろんのこと、県内各地の私立幼稚園・認定こども園の先生方にお集まりいただき、たくさんの意見交換、情報交換が出来ることを願っています。

（やさか幼稚園 副園長 佐藤真喜子）



第2回東北大会実行委員会

県南 「質の高い幼児教育を目指して」



つなげるジャンケン列車

県南地区奥州支部では、隔月で主幹部会を開催し、各園の園内研修の状況や各園で課題となっていることについて意見交換を行っています。お互いの園の研修を知ることで自園の保育を振り返ることができ質の向上につながっています。

また、今年度本園では、「質の向上につながる保育現場の見直し」というテーマを掲げ研修を行ってきました。研修内容としては、テーマについての共通理解を図り、自園の保育現場において見直したいことについて出しました。その上で、保育者一人一人が子ども達の最善の利益は何かを考え、一つ一つの項目について意見を交わし、質の向上に向けて日々研修を進めてきました。この研修を通して職員の意識が高まりより良い保育に繋がっています。

今後も、私達保育者は、日々の忙しさに追われることなく、自己研鑽を重ね、質の高い保育に向け努力を重ねていきたいと思ひます。

(認定こども園水沢こども園 主幹保育教諭 渡邊千恵)

沿岸 「共に学び合う研究会」

沿岸地区では、大槌・釜石・遠野ブロックと宮古・山田ブロック共に令和6年度、それぞれ園ごとにテーマを決めて研究を進めてきました。

コロナ禍で中止となっていた、情報交換や交流会なども昨年度から再開し、子どもの様子や保育の悩みなどを伝えあう事で、研究の手だてなど見つける事が出来ました。又、毎日忙しい日々を送っている先生方にとって、同じ喜びや悩みをもつ先生方と会う事で、気持ちもフレッシュ出来たようです。

各園ごとの研究テーマで1番多かったのが“幼保小の連携及び接続の理解”でした。地域によって、小学校との連携の違いを感じながらも、幼稚園生活が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながる事を改めて学ぶ事が出来た1年目でした。2年目の研究では、小学校との意見交換を行い、円滑な接続を図るよう努めながら、研究を深めていきたいと思ひています。

(光の園幼稚園 副園長 後藤昌子)



園内研修 ～お互いの保育を見学してみよう！～

『絵本で育む力』



みんな大好き！読み聞かせ

ネット主流の世の中になっている現在、動画を見ることが生活の一部になっている子どもも多くいます。動画の力は強く、園生活の中でも子どもの心や行動への影響を強く感じているのではないのでしょうか。

本園では『絵本のたのしさとそのちから』と題し、市立図書館の館長さんを招いて子育て講演会を開催しました。講話では『絵本は考える体験を繰り返し、想像力が養われ、他人の気持ちを思いやる心を育てる力がある』『絵本から知り得たことは誰からも奪われない』という言葉があり、絵本を読むことの大切さを改めて感じる事が出来ました。園でも毎日の読み聞かせを大切に、子どもとの有意義な時間を作っています。これからも素敵な絵本にどんどん触れ、子ども達に『絵本で育む力』をつけていきたいと思ひます。

(幼保連携型認定こども園久慈幼稚園 主任保育教諭 中村有希)

第40回岩手県私立幼稚園・認定こども園 連合会 教員研修大会《ご案内》

- 大会主題 一人ひとりの「こどもがまんなか」をまもる質の高い幼児教育を～社会全体でつむぎ未来へつなぐために～
- 期 日 令和7年3月25日(火)
- 会 場 いわて県民情報交流センター アイーナ 小田島☆ほ～
〒020-0045 盛岡市盛岡駅西通1丁目7番1号
Tel 019-606-1717
- 記念講演 演 題「架け橋期を考えた幼保小の接続・連携について」
講 師 いわて幼児教育センター
岩手県教育委員会事務局 学校教育室幼児教育担当
主任指導主事 瀬谷 圭太先生
- 研究・協議 幼児教育で育てたい資質・能力はなにか、それをどのように小学校教育につなげていくのか考えます。
午前の講演に引き続き、全体コーディネーターとして「いわて幼児教育センター瀬谷圭太先生」にご指導いただき研究協議を進めていきます。

◇研究発表

- 「健康な心と体を育む保育を考える」
幼保連携型認定こども園 しんじょう幼稚園
保育教諭 小水内春香(県南地区)
- 「子どもの育ちと学びをつなぐ」
～幼稚園から小学校への円滑な接続のための基盤作り～
中央みのり幼稚園 教諭 伊藤 忍(中部地区)

◇話題提供

- 私の園での「幼小接続に向けた取り組み」について
認定こども園みどり幼稚園 保育教諭 佐々木彩実(沿岸地区)

●編集後記

この会報が発行される頃には春の光がキラキラと眩く感じられる頃となっていることでしょう。

この頃の冬は雪が少なくなって雪遊びが十分にできずに残念ですが、感染症の状況が今年は非常に変化していることを聞きさ

らに心配しています。コロナにより、感染症対策を必死に実施してきた中で、コロナ以外の感染症(インフルエンザ、マイコプラズマ肺炎、溶連菌感染症、手足口病、リンゴ病、RSウイルス感染症等)に罹患することが少ない状況でしたが、その分免疫をもたない人が多く、今年は、一気にそのような感染症に罹患する人が増加している

そうです。更に、流行の時期が今までと変わっていたり、二つ三つの感染症に同時にかかる重症化するケースも多くみらるというニュースでした。

寒さが未だ厳しい中、皆さんが元気に健やかに過ごせますようにと願うばかりです。

(政策委員 工藤純世)